

令和元年9月25日

西東京市教育部公民館
館長 高田 敦子 殿

西東京市公民館運営審議会
会長 小野 修平

平成30年度西東京市公民館事業評価（二次評価）の所見について

公民館運営審議会において、平成30年度西東京市公民館事業評価の二次評価に関する議論を行う過程において、各委員から出された意見及び二次評価を実施するにあたっての基本的な考え方や実施経過について、下記のとおり示す。

記

1 意見

平成30年度事業評価二次評価を実施してきた中で、改めて西東京市の公民館が積極的に地域課題を取り上げるとともに、市民が集い、主体的に学ぶための環境を保障する取組を積極的に行っていることを確認することができた。公民館においては、厳しい財政状況ではあるが、今後ますます公民館の存在意義が増していく中で、特に下記の2点について、早急な検討及び改善を求めたい。

（1）職員体制の見直し・改善

二次評価の検討を通して、市民にとってかけがえのない、公民館ならではの事業や取組が多く存在することを改めて確認したが、現在の公民館における職員体制は常勤の正規職員数が極端に少なく、本来常勤正規職員が担うべき役割が十分に果たせていないことが確認できた。予算削減の中で厳しい状況であることは理解できるが、中長期的な視点で社会問題や地域課題を解決するとともに、市民が豊かな生活を送っていくためには、公民館に常勤正規職員を適切に配置し、公民館運営の中核となることが求められる。教育委員会や市長部局とも連携し、公民館の意義を再確認するとともに、早急に職員体制の充実に向けた検討をお願いしたい。

（2）公民館だよりの意義の再確認と広報の充実

現在、西東京市公民館では、公民館だよりを毎月発行し、全戸配布することにより、事業案内や利用団体の会員募集などを積極的に行っている。とりわけ、1面記事は、公民館だよりを通した「届ける社会教育」の実践として、大いに評価できる取組を行っている。

しかし、上記（１）にもあるとおり、常勤正規職員数の不足や業務負担の増加の問題をはじめ、予算削減の流れもあり、公民館だよりの発行に関しての見直しを求められている状況であることは確かである。こうした現状の中で我々は、他市に誇れる「届ける社会教育」の実践の場としての公民館だよりの意義を深く認識するものである。

そこで、職員体制の見直しや公民館だより発行の在り方を十分かつ慎重に検討するとともに、SNSの活用なども含めた広報の充実に向けた検討をお願いしたい。

2 評価実施にあたっての基本的な考え方

- ・事業評価の在り方については、平成31年4月24日に公民館運営審議会から答申した「西東京市公民館事業評価の位置付けと事業計画の関係について（答申）」において、課題の整理及び今後の方向性についての提言をしており、特に中長期的視点での事業計画の策定及び事業運営を求めているが、平成30年度の事業評価については、前年度までの事業評価表をベースに行うものとする。
- ・二次評価の実施にあたっては、「公民館運営審議会二次評価検討部会」を立ち上げて議論を行い、定例会に諮りながら、進めていくものとする。
- ・二次評価では、各項目の評価内容や実績指標を評価するとともに、各評価内容や実績指標の内容設定及び一次評価の評価内容が妥当かという点も評価していくものとする。

3 評価実施経過

- (1) 令和元年6月26日（水）：第3回定例会
実績データに関する提示及び説明、大まかなスケジュールの確認
- (2) 令和元年7月24日（水）：第4回定例会
一次評価の提示及び説明、二次評価の進め方に関する協議
- (3) 令和元年7月26日（金）：第1回事業評価検討部会（6名参加）
二次評価の意義及び方向性の確認、評価表1枚目を中心とした検討
- (4) 令和元年8月14日（水）：第2回事業評価検討部会（11名参加）
第1回検討部会の内容共有、評価表1・3枚目を中心とした検討
- (5) 令和元年8月26日（月）：第3回事業評価検討部会（8名参加）
評価表2・3枚目を中心とした検討
- (6) 令和元年8月28日（水）：第5回定例会
第1～3回検討部会の内容共有及び今後の方向性の確認
- (7) 令和元年8月30日（金）：第4回事業評価検討部会（10名参加）
評価表の内容再確認及び付帯意見等の協議
- (8) 令和元年9月25日（水）：第6回定例会
二次評価及び所見の承認